



## シーマロックス液肥



### 液体微量元素複合肥料

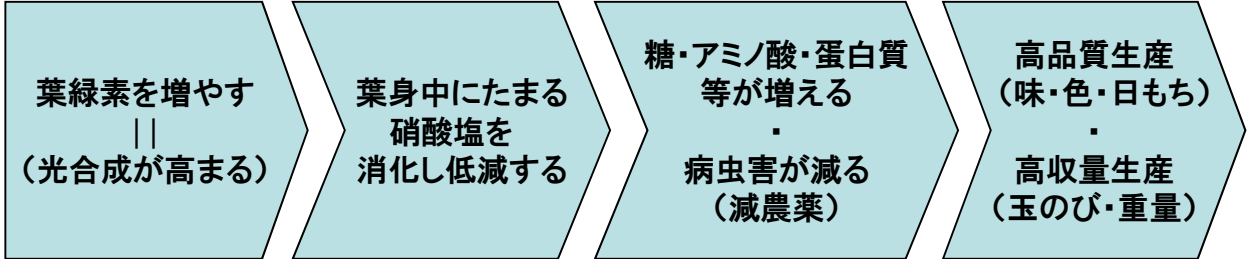


《シーマロックス液肥》は肥料と言うよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20～30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です。

ティ・エイチ・ティ株式会社

## シーマロックス液肥とは

シーマロックス液肥は微量元素資材です。従来の微量元素資材との違いは各要素が完全に水溶化(錯イオン)であるため、土壌灌水・葉面散布することで作物の茎根及び葉面吸収が迅速で1~2日で吸収し、葉緑素の生成、光合成(糖の合成)を高めます。



## 植物の必須元素

作物が正常に生育する必須要素として17元素が知られています。まずはC・H・O(炭素・水素・酸素)の3元素で水と空気が原料となります。肥料と呼ばれる必須要素は14元素です。

1. N P K (チツソ、リン、カリ)の3大要素です
2. Ca Mg S Si (石灰、苦土、硫黄、ケイ素)の中量4元素です
3. Mn B Fe Zn Mo Cu Cl (マンガン、ほう素、鉄、亜鉛、モリブデン、銅、塩素)の微量元素と称する7元素です  
(下線を付けた元素は生体内酵素の活性要素となる元素です)

シーマロックス液肥の含有要素は微量元素(7元素)の他に新発見の光合成を高めるTi(チタン)をはじめ22元素以上を含有します。

3大要素、中量4元素、微量元素7元素の14要素が過不足(過剰・欠乏)なくベストの施肥設計された圃場でもシーマロックス液肥の施用は収量・品質を大幅に高めます。シーマロックス液肥の含有微量元素が錯イオンであるためです。あえて触媒(酵素)肥料と考えます。

実績事例(10アール当たり)

水稲 8俵→10~10.5俵 イチゴ 4トン→5~5.5トン

茶(製茶歩留) 25~30%増 トマト 20~30%増収

### 肥料に関して

- 作物の栄養源(肥料)はチツソ以外は岩石起源(植物無機栄養説)
- 作物の養分(肥料)は水溶化してはじめて吸収される
- 農業は光合成産業であり地球最大の有機合成工場です。葉緑素(これも酵素)をつくることに始まり、主として酸化還元反応によって自らの体をつくります。酸化・還元(化学反応)には必ず触媒(酵素)が必要で微量元素(微量元素)が酵素活性を高めます。

## シーマロックス液肥と作物中の硝酸性窒素

農業でのチッソ肥料は、作物の生育を盛んにし、生産量をも高める重要で不可欠な要素です。と同時にチッソ肥料(有機肥料、化成肥料ともに)の多用は、次のような問題を生じます。

ほとんどの作物は茎葉中に硝酸態チッソを蓄積する結果

1. 葉菜類(ほうれん草、こまつ菜、中国野菜、等)は、過剰の硝酸態チッソが人の健康を害します。食べると発がん性物質に変化し、最近では糖尿病の一因とも言われています。
2. 果菜(トマト、ナス、等)や果物では、果実に硝酸態チッソは蓄積しないので心配ありませんが、茎葉には硝酸態チッソが蓄積し、病害・虫害(アブラムシ、ダニ、等)を生じやすくなります。
3. 硝酸態チッソを茎葉に貯めた作物は、食味と日もち(鮮度保持力)が低下し、品質が劣ります。

即ち、チッソ肥料は収穫量を高めますが、食べる人への有害性・作物の病虫害の多発・品質低下とマイナスも大きいのです。

これらの問題は

**シーマロックス液肥**で全て解決します

作物の光合成力を20~40%高めるパワーを持っています。

適期に葉面散布・株元灌水する事で光合成を高め、作物の茎葉に停滞する硝酸態チッソを速やかに解消します。

硝酸態チッソはアミノ酸に還元同化します。いわば作物がチッソを過食した結果で、光合成力を高めることは胃薬・消化剤に例えられます。



# 天然鉱物抽出ミネラル

## 水稻育苗での

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です



(2003年4月25日撮影)

- 品種: コシヒカリ  
規模: 本田5.5町歩  
籾消毒: シーマロックス液肥の500倍水  
播種前2日間隔で3回換水  
(発芽促進のため微温湯使用)  
播種: 4月6日(発芽後3回2,000倍水の葉面散布)  
田植始め: 4月27日~  
観察: 発芽率極めて良好  
バカ苗の発生ゼロ  
慣行の消毒剤は使用せず  
田植え後の活着生育始まりも4~5日早まる

\* 写真: 右側慣行区は発芽率も不良で生育も5~6日遅れている

- \* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。
- \* 希釈水に少し沈殿が生じるがありますが有効成分のミネラルが析出したものです。
- \* 希釈水は毎回使い切りください。





# 天然鉱物抽出ミネラル

## 稲作での

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

#### (1) 苗作り

1. 種籾を、シーマロックス液肥1,000~2,000倍希釈水に24時間以上浸種した後に播種します。
2. 発芽後は2,000倍水を1回/週、葉面散布します。  
効果 肉厚葉・短節間のズングリ苗で根張りで、徒長のない「苗半作」を実現します。

#### (2) 本 田

1. 田植前(代かき)または直後に動噴・鉄砲散水します。  
シーマロックス液肥 1.5Lを水適量に希釈し全面に散布します。
2. 田植3週間後に葉面散布をします。(動噴・鉄砲散水)  
シーマロックス液肥 0.3~0.4L 水200L
3. 出穂2週間前に2回目の葉面散布をします。  
シーマロックス液肥 0.3~0.4L 水200L
4. 出穂(穂ぞろい)後3回目の葉面散布をします。  
シーマロックス液肥 0.3~0.4L 水200L

#### シーマロックス液肥施用 計2.4~2.7L

- ※ 葉面散布は早朝または夕刻(晴天日中を避ける)
- ※ 散布後2~3日は降雨・増水等で流失しないこと
- ※ 出穂前の「中乾し」の場合は取水時に点滴でも可。ベストは葉面散布

効果 緑葉の枯れ上がりが遅く、またコシヒカリも倒伏しません。  
平均地力(8俵取)の水田で、10俵超(30%前後)の増収と高食味高品質の収穫が約束されます。

※本田定植後の分けつも旺盛で密植状態になります。株間を広げ疎植にしてください。

- \* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。
- \* 希釈水に少し沈殿が生じる場合がありますが有効成分のミネラルが析出したものです。
- \* 希釈水は毎回使い切りください。



# 天然鉱物抽出ミネラル

## トマト栽培での

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20～30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

#### (1)育苗期

・シーマロックス液肥を1000～2000倍に希釈して葉面散布  
月/3～4回

効果 小葉肉厚葉, 短茎、根張りのよいズングリ苗を生産します。  
「苗半作」を実現します。

#### (2)定植前

・定植前にシーマロックス液肥3.0Lを水300～400Lに希釈し、全面散布した後に畝立て⇒マルチ⇒定植 します。

#### (3)定植

・シーマロックス液肥2,000倍液で苗をどぶ漬け。又は植穴2,000倍液1L灌水処理。

#### (4)成長～収穫期

・シーマロックス液肥1.0Lを月5～6回に分けて施用します。  
葉面散布 4回(シーマロックス液肥0.1L、水100～200L/1回) 動力噴霧機使用  
土壌灌水 2回(シーマロックス液肥0.3L、灌水チューブに添加)

効果 増収30%以上食味、果色の向上、日持ち延長、なり疲れ中休みを解消します。

シーマロックス液肥は一作(9月～6月)約10L、1000倍～2000倍を基準に施用します。

\*チューブ溶液との混用は肥料吸収を高めます。

- \* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。
- \* 希釈水に少し沈殿が生じることがありますが有効成分のミネラルが析出したものです。
- \* 希釈水は毎回使い切りください。



# 天然鉱物抽出ミネラル

## 果菜(ナス・キュウリ・ピーマン)での

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

#### (1)育苗期

・シーマロックス液肥を1000~2000倍に希釈して葉面散布  
月/3~4回

効 果 小葉肉厚葉, 短茎、根張りのよいズングリ苗を生産します。  
「苗半作」を実現します。

#### (2)定植

・定植前にシーマロックス液肥2.0Lを水400~600L(200~300倍)に希釈し、全面散布した後に 畝立て⇒マルチ⇒定植 します。

#### (3)成長~収穫期

・シーマロックス液肥0.8~1Lを月3~4回に分けて施用します。

葉面散布 4回(シーマロックス液肥0.1L、水100~300L/1回)動力噴霧機使用  
葉の裏側がヌレると更によい。

土壌灌水 1回(シーマロックス液肥0.6L、灌水チューブに添加)

効 果 増収平均30%と食味、果形・果色の向上、日持ち延長、なり疲れ中休み防止等高品質生産を確実にします。  
ナス栽培での高温期の着色不良(色ボケ)を解消します。

シーマロックス液肥合計は一作5.0~8.0L前後を施用します

\*チューブ溶液との混用は肥料吸収を高めます。

\* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。

\* 希釈水に少し沈殿が生じることがありますが有効成分のミネラルが析出したものです。

\* 希釈水は毎回使い切りください。



# 天然鉱物抽出ミネラル

## 野菜類での

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20～30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

野菜類は種類も多く、生育期間の長短、露地・施設栽培の違い等によりシーマロックス液肥の施用量、回数が異なります。およそ下記の基準を参考に自園の栽培管理に組み入れてください。

#### (土耕でのシーマロックス液肥の施用)

##### (1)播種・定植前の圃場散布

・シーマロックス液肥2.0Lを水400～600Lにうすめ圃場全面または播種床畦に散布(動噴・Sスプレー)し耕起畦立て⇒播種・定植する。(連作障害やセンチウの抑制効果もある)

1. 栽培30～40日の促成野菜では、二作毎に1回散布
2. 栽培90日を超える野菜にあっては、一作毎に1回散布

##### (2)生育期間中の葉面散布

1. 栽培30～40日の促成野菜では生育の後半、収穫の4～5日前までにシーマロックス液肥0.2L水200～300Lを4回葉面散布する。

2. 栽培90日を超える野菜にあっては、収穫前30日頃より収穫の4～5日前までにシーマロックス液肥0.2L水200～300Lを4回葉面散布する。

更に間引き・土寄せ・追肥・防除に併せてシーマロックス液肥0.4Lを水400～500Lに1回葉面散布する。

#### (水耕でのシーマロックス液肥の施用)

(1)水耕養液にシーマロックス液肥0.5Lを月2回添加する。

(2)一作毎に生育の後半から収穫の4～5日前までにシーマロックス液肥0.1L水100～200Lを4回葉面散布する。

- \* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。
- \* 希釈水に少し沈殿が生じる場合がありますが有効成分のミネラルが析出したものです。
- \* 希釈水は毎回使い切りください。





# 天然鉱物抽出ミネラル

## 大葉での

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

#### (1)育苗期

1. さし穂を採取するとき、バケツにシーマロックス液肥2,000倍液を調整し、さし穂をドブ漬けする。
2. 育苗培土にシーマロックス液肥2,000倍液をジョウロで散水。  
(培土を握って固まる程度)
3. 芽さし後にタツプリ灌水(2,000倍液)、定植まで5~7日間隔で灌水する。

#### (2)定植時

1. 定植前に圃場にシーマロックス液肥2.0Lを200~300倍液として全面又は植え床に 散布⇒耕起・畝立て⇒定植する。
2. 定植後シーマロックス液肥原液0.5L水1,000~1,500Lを株元に灌注する。  
(動噴又はチューブ)

#### (3)生育~収穫期

1. 葉面散布シーマロックス液肥0.1L水200Lを週/1回(収穫後半では300L)細霧で葉の裏側もスレるとよい
2. 土壌灌水シーマロックス液肥0.5Lを養液タンクに加え株元灌水月/1回(0.25L×2回/月でもよい)

シーマロックス液肥一作合計約5.0L

※ 摘み取った大葉にシーマロックス液肥2,000倍液を噴霧すれば 鮮度保持(日もち)が向上する。

大葉も施肥チツソが土壤硝化菌の働きによって硝酸性チツソとなって吸収され、葉身中に停滞します。シーマロックス液肥の施用は葉緑素の生成を増やし、光合成力の強化で硝酸性チツソ⇒糖・アミノ酸に速やかに消化します。  
(硝酸性チツソは発ガン・糖尿病原因と言われている)

- \* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。
- \* 希釈水に少し沈殿が生じる場合がありますが有効成分のミネラルが析出したものです。
- \* 希釈水は毎回使い切りください。



# 天然鉱物抽出ミネラル

## いも類(でん粉作物)での

(さつまいも・じゃがいも・さといも・やまいも)

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

でん粉作物といわれる、いも類は光合成要求量の高い作物でシーマロックス液肥の施用効果が、目にみえて著しく30%の増収と正品率、食味品質に優れた高品質、高収量を実現します。

(さつまいも施用例) 10アール当

#### (1)育苗期

##### 苗床準備

・シーマロックス液肥1.5Lを水200~400Lにうすめ全面散布し、耕運畦立てします。

\* 苗床の土壌消毒される場合は、消毒後5日以上間を置いて散布します。

##### 親苗植付

・親苗定植後はシーマロックス液肥0.1L水200Lにうすめ週1回葉面散布します。

#### (2)本畑定植

##### 植付前準備

・本畑の元肥施用前後にシーマロックス液肥1.5L水300~400Lにうすめ全面散布して畦立てマルチ処理します。

・いも苗をシーマロックス液肥2000倍水に5~10時間浸漬(切口より2~3cmの深さ)吸水(水あげ)して定植します。

#### (3)生育肥大期

##### 生育初期

・定植→活着発根→新芽伸長初期シーマロックス液肥0.2L水300~400Lにうすめ10日間隔で2回葉面散布します。

##### 肥大期

・いもの肥大期にシーマロックス液肥0.2L水300~400Lにうすめ7~10日間隔で3~4回葉面散布します。

さつまいも一作でのシーマロックス液肥使用量:原液で合計2.5~2.7L(本畑)

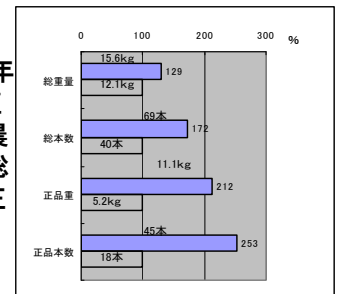
\*じゃがいも・さといも・やまいも・れんこん・しょうが等も同様にお使いください。



#### H13年度坪掘り調査

主催:JA佐原市園芸部

さつまいも栽培農家86戸が参加の13年度坪掘り調査で成績上位20戸の平均値を100としてシーマロックス液肥施用Y農園の収量比較(右グラフ)。Y農園では総重量比30%増、正品重比では2.1倍で正品本数は2.5倍でした。



\* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。

\* 希釈水に少し沈殿が生じることがありますが有効成分のミネラルが析出したものです。

\* 希釈水は毎回使い切りください。



# 天然鉱物抽出ミネラル

## 大豆での

(えだ豆・小豆・ささげ豆・実エンドウ・そら豆等)

## シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20～30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

### (1)播種前(元肥・病害菌抑制)

- ・ シーマロックス液肥1.5～2.0L 水150～200L(100倍・水量増減自由)を圃場全面散布後または播種畦散布後に耕うん・播種します。

### (2)生長期

1. 第1回中耕・培土(播種後25日前後)作業前または同時にシーマロックス液肥0.2L 水400Lを株元灌水します。
2. 第2回中耕・培土(播種後40日前後)作業前または同時にシーマロックス液肥0.3L 水600Lを株元灌水します。  
※ 水量は、土壌水分の多少によって加減します。

### (3)生長期(開花前・登熟期)

1. 開花直前にシーマロックス液肥0.3L 水600～900Lを葉面散布します。
2. 登熟期にシーマロックス液肥0.3L 水600～900Lを葉面散布します。

大豆でのシーマロックス液肥は、一作2.6～3.0Lを施用します。

\* 土灌・葉散共に動力噴霧器、ブームスプレーヤー

- \* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。
- \* 希釈水に少し沈殿が生じることがありますが有効成分のミネラルが析出したものです。
- \* 希釈水は毎回使い切りください。



# 天然鉱物抽出ミネラル

## イチゴ栽培での

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

#### (1)育苗期

・シーマロックス液肥を1000~2000倍に希釈して葉面散布  
月/3~4回

効果 小葉肉厚葉, 短茎、根張りのよいズングリ苗を生産します。  
「苗半作」を実現します。

#### (2)定植前

・定植前にシーマロックス液肥2.0Lを水200~400L(100~200倍)に希釈し、全面散布した後に 畝立て⇒マルチ⇒定植 します。

#### (3)成長~収穫期

・シーマロックス液肥1.0Lを月3~4回に分けて施用します。  
葉面散布 4回(シーマロックス液肥0.1L、水100~200L/1回)動力噴霧機を使う。  
土壌灌水 3回(シーマロックス液肥0.2L/1回、灌水チューブに添加)

効果 増収30%以上(2L,3L大玉収穫)、糖度3~4度アップ  
食味、色づき良く、日持ち延長、なり疲れ中休み防止

シーマロックス液肥は、一作(9月定植、4月末まで収穫)約9.0L、  
1000倍~2000倍を基準に施用します。

\*チューブ溶液との混用は肥料吸収を高めます。

- \* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。
- \* 希釈水に少し沈殿が生じる場合がありますが有効成分のミネラルが析出したものです。
- \* 希釈水は毎回使い切りください。



# 天然鉱物抽出ミネラル

## ブドウでの

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

果樹類でのシーマロックス液肥の標準用法は、植栽密度・樹齢・樹形・開花・収穫期の違い等、一概に決めかねます。シーマロックス液肥の施用時期・用量・用法の基本は、次のように考え自園の管理体系に組み込んでください。

#### (1)元肥(休眠期~萌芽期)

- ・シーマロックス液肥2.0L(1.0L×2)水500~1,000Lにうすめる(動噴)
- ・樹幹枝を洗うように動噴灌水します。(石灰・硫黄合剤とは混用しない)。

#### (2)開花前後の葉面散布(開花ぞろいと玉伸びのため)

- 1.シーマロックス液肥0.2L水200~300Lにうすめて葉面散布 開花前1回(7日間隔)
- 2.満開7日後よりシーマロックス液肥0.1L水200~300Lを葉面散布 2回(7日間隔)

#### (3)追肥期

- ・シーマロックス液肥0.5L水500~1,000Lを樹冠灌水または土壤灌注

#### (4)果粒肥大期~収穫前(食味・糖度・着色向上のため)

- ・収穫40日前からシーマロックス液肥0.1L水200~300L葉面散布
- 3~4回(7日間隔)収穫7~10日前に終わるように

#### (5)礼肥

- ・収穫完了後シーマロックス液肥0.5L水500~1,000Lを樹冠灌水又は土壤灌注

シーマロックス液肥合計3.7~3.8Lを施用します

#### 効果

- 1.細根が増えて肥料吸収が良くなると共に樹勢が力強くなります。
- 2.新葉に停滞する硝酸チツソが低減し病害に強く果実の食味(糖度)・色・玉伸びがよく高品質と高収量を達成できます
- 3.シーマロックス液肥の葉面散布は葉緑素増加させ光合成を30%アップし、ブドウ糖の生産も30%増えます。

- \* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。
- \* 希釈水に少し沈殿が生じる場合がありますが有効成分のミネラルが析出したものです。
- \* 希釈水は毎回使い切りください。





# 天然鉱物抽出ミネラル

## 果菜での

(メロン、スイカ、カボチャ等)

## シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

メロン栽培でのシーマロックス液肥の施用モデルは下記に従って慣行栽培体系に組み合わせてください。

### (1)元肥

- 定植(3~4日前)に植床にシーマロックス液肥2.0Lを200~400Lの水に希釈、全面散布し 畝立て⇒マルチ⇒定植 します。

### (2)定植

- 定植後シーマロックス液肥2000倍水を株元にタツプリ灌水します。
- 定植→開花までの間にシーマロックス液肥0.2L×1,000~2,000倍水を3回葉面散布。(週/1回)

### (3)生育期

- 摘果が終り玉肥大期にはシーマロックス液肥2,000倍水を7~10日間隔で葉面散布します。(基準はシーマロックス液肥0.1L~0.2L水200~400L/1回)
- 定植後25日、50日後の2回シーマロックス液肥0.3Lを水400~500Lで株元灌水(チューブ等)します。

### (4)収穫期

- 収穫1ヶ月前から4~5回シーマロックス液肥2000倍水を葉面散布しメロンの食味、糖酸(アミノ酸)バランスを高めます。

シーマロックス液肥使用量は10アール当り一作3.0~3.5Lを標準とします。

シーマロックス液肥の施用は、メロンの光合成(葉緑素生成)を高め、根から吸収した肥料中特にチッソ肥(硝酸性)を同化することで茎葉の生育を盛んにし耐病性(免疫力)を高め玉伸、食味を最高にします。

- \* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。
- \* 希釈水に少し沈殿が生じるがありますが有効成分のミネラルが析出したものです。
- \* 希釈水は毎回使い切りください。



# 天然鉱物抽出ミネラル

## 果樹類での

(柑橘・イチジク等)

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

果樹類でのシーマロックス液肥の標準用法は、植栽密度・樹齢・樹形・開花・収穫期の違い等、一概に決めかねます。シーマロックス液肥の施用時期・用量・用法の基本は、次のように考え自園の管理体系に組み込んでください。

(1)春の基肥(芽出し肥) <発根量の増大と促進>

・シーマロックス液肥1.0L水500~1,000Lに希釈し、土壤灌水する。

(2)果実肥大期 <玉伸び大玉づくりのために>

・着果・摘果後の果実肥大はじめに、シーマロックス液肥0.3L水500Lで希釈、葉面散布する。(2回散布がベスト)

(3)収穫期 <食味(糖度)色あがりを高めるために>

・収穫前30~40日前からシーマロックス液肥0.5L水500Lに希釈、3~4回葉面散布する。

(4)夏・秋肥(礼肥) <来年に備えて>

・収穫直後あるいは7~8月の夏の灌水にシーマロックス液肥0.5L水500L以上で希釈し、葉面散布あるいは土壤灌水する。

シーマロックス液肥を年間で4.0~5.0Lを適期に施用して高品質・高収量を確実にします。



写真説明 清見オレンジ2年生苗

4月定植シーマロックス液肥0.015L水15~20L灌水

7月 シーマロックス液肥0.015L水15~20L灌水

10月 抜根調査樹高

試験区(右)130cm 対照区90cm(左)

\* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。

\* 希釈水に少し沈殿が生じることがありますが有効成分のミネラルが析出したものです。

\* 希釈水は毎回使い切りください。



# 天然鉱物抽出ミネラル

## 落葉果樹での

(梅・桃・洋梨・リンゴ・柿・キーウイ等)

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

果樹類でのシーマロックス液肥の標準用法は、植栽密度・樹齢・樹形・開花・収穫期の違い等、一概に決めかねます。シーマロックス液肥の施用時期・用量・用法の基本は、次のように考え自園の管理体系に組み込んでください。

#### (1)元肥(休眠期~萌芽期)

- ・シーマロックス液肥2.0L(1.0L×2)水500~1,000Lにうすめる(動噴)
- ・樹幹枝を洗うように動噴灌水します。(石灰・硫黄合剤とは混用しない)。

#### (2)果実肥大期(玉伸び・大玉づくりのために)

- ・着果・摘蕾後の果実肥大はじめにシーマロックス液肥0.3L水300~600Lを葉面散布 2回

#### (3)収穫前(食味・糖度・色あがり向上のため)

- ・収穫30~40日前からシーマロックス液肥0.2L水200~300L葉面散布 3~4回(7日間隔)収穫7~10日前に終わるように

#### (4)礼肥

- ・収穫完了後シーマロックス液肥0.5L水500~1,000Lを樹冠灌水又は土壤灌注

シーマロックス液肥合計3.7~3.9Lを施用します

#### 効果

- 1.細根が増えて肥料吸収が良くなると共に樹勢が力強くなります。
- 2.新葉に停滞する硝酸チッソが低減し病害に強く果実の食味(糖度)・色・玉伸びがよく高品質と高収量を達成できます

\* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。

\* 希釈水が少し白濁することがありますが有効成分です。希釈水は毎回使い切りください。



# 天然鉱物抽出ミネラル

## オウトウ栽培での

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

オウトウ類でのシーマロックス液肥の標準用法は、樹種・樹形・樹齢・樹種密度の違いによる開花時期・収穫期の違い等さまざまですがオウトウでの標準施用を参考として園の管理体系に組み込んでください。

#### (1)芽だし肥(発根促進・花ぞろえ)

- ・3/中~摘蕾と共に樹冠灌水(木を洗うと共に土壌灌水する)
- ・シーマロックス液肥0.8L水800L/1回に希釈し動噴する(期間中2回)
- ・農薬との混用不可

#### (2)開花期(活力ある花ぞろい)

- 1.4/上・中にシーマロックス液肥0.2L水400L/1回に希釈し葉面散布(期間中2回)
- 2.農薬との混用可

#### (3)果実肥大期(整理落花防止・玉伸び・色づき・食味向上のため)

- ・5/上~6/上にシーマロックス液肥0.2L水400L/1回に希釈して樹冠灌水(期間中3回)
- ・農薬との混用可

#### (4)収穫終了後(花芽分化に備えて、礼費・元肥)

- ・7/中~8/下にシーマロックス液肥0.5L水1,000L/1回に希釈して樹冠灌水(期間中2回)
- ・農薬との混用可

シーマロックス液肥合計3.6Lを施用します

#### 効果

- 1.細根が増えて肥料吸収が良くなると共に樹勢が力強くなります。
- 2.新葉に停滞する硝酸チツソが低減し病害に強く果実の食味(糖度)・色・玉伸びがよく高品質と高収量を達成できます

- \* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。
- \* 希釈水に少し沈殿が生じるがありますが有効成分のミネラルが析出したものです。
- \* 希釈水は毎回使い切りください。





# 天然鉱物抽出ミネラル

## バラのロックウール栽培での

(ゆり・カーネーション・ガーベラ等)

## シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

バラロックウール栽培でのシーマロックス液肥の用法は、葉面散布と培養液混合することで次のような効果が期待できます。

- 1.発根多く根張りが旺盛になる(肥料吸収がよい)
- 2.葉緑素生成が増加し、光合成力(ブドウ糖生産)が高まるため、シュートの発生が多く切り花収率が向上する(高収量生産)
- 3.光合成が高まると、茎葉中に滞留する、硝酸性チッソが速やかに(アンモニア)⇒(アミン)⇒(アミノ酸・糖)へと消化し切り花の収率と共に低硝酸化は病虫害に強くなり、消毒回数、農薬量の削減になる。花色・葉色も鮮やかにし出荷後の鮮度保持に優れる(高品質生産)。

### —————<標準用法>—————

#### (1)育苗期(苗半作健苗生産)

・サシ木苗をシーマロックス液肥2,000倍液にドブ漬け水あげした後に キューブに芽ざしする。発根と活着率を高める。

#### (2)培養液管理

・シーマロックス液肥0.6L/月を3~4回に分けて培養液中に加える。

#### (3)葉面散布

・シーマロックス液肥0.1~0.2L/週1回を水200~400Lに希釈し、葉面散布する。(細霧で葉の表裏をヌらすのがよい)

### シーマロックス液肥合計約1.0L施用(1ヶ月)

#### (\*)切り花の水あげ(流通鮮度保持)

・シーマロックス液肥2,000倍液をバケツに調整し、切り花を漬け水あげすれば、出荷後の鮮度保持がよくなる。

\* 菊・ゆり類・カーネーション・トルコキキョウ・ガーベラ等水耕・土耕を問わず、バラ同様に高品質、高収量に貢献します。

\* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。

\* 希釈水に少し沈殿が生じる場合がありますが有効成分のミネラルが析出したものです。

\* 希釈水は毎回使い切りください。





# 天然鉱物抽出ミネラル

## 菊での

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

#### (1)育苗期(苗半作健苗生産)

- ・サシ芽を2,000倍液でよく水あげした後に、培土にサシ芽します。発根も早まり活着率が高まります(発根促進剤不用)

#### (2)育苗期

- ・葉面灌水シーマロックス液肥2,000倍液を散布します。

#### (3)定植期(病害菌・センチュウを制御して土壌改良)

- ・定植前圃場にシーマロックス液肥2.0L水200~400L(100~200倍)を、全面散布した後に 耕運⇒畝立て⇒定植 します。
- ・定植後2,000~3,000倍水を株元にタツプリ灌水し根を安定させる。

#### (4)生長~開花期(光合成を高め硝酸態チツソの低減、病害耐性を強化)

- ・株元灌水:シーマロックス液肥0.2L×2~3回/月 灌水中に加える
- ・葉面散布:シーマロックス液肥0.1L水100~200L/月4回葉面散布

#### (\*)切り花の水あげ(流通鮮度の向上)

- ・切り花の水あげを、よくするためにシーマロックス液肥2,000倍水のバケツに漬け吸水させ、流通鮮度を高めます。

\*シーマロックス液肥の過剰施用は作物によっては生育を抑制しますのでシーマロックス液肥原液0.8~1.0L/月を標準としてください。

**効果** 菊栽培でのシーマロックス液肥の施用は、適期に株元灌水と葉面散布することで、次のような効果が期待できます。

- ・ 発根量が多く、根張りが旺盛になる(肥料吸収がよい)
- ・ 葉緑素の生成が増進し、光合成が30%アップ。切り花収率も高まる(高収量生産)
- ・ 光合成が高まるため、茎葉中に滞留する硝酸態チツソを速やかに(アンモニア)⇒(アミン)⇒(ブドウ糖・アミノ酸)へと流転するため、切り花の収率のみならず花色・葉色も鮮やかで流通鮮度保持に優れる(高品質生産)

\* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。

\* 希釈水に少し沈殿が生じる場合がありますが有効成分のミネラルが析出したものです。

\* 希釈水は毎回使い切りください。



# 天然鉱物抽出ミネラル

## 茶栽培での

### シーマロックス液肥 の用法 (10アール当たり)

シーマロックス液肥 は肥料というよりは、まったく新しいタイプの光合成増強資材です。主に葉面散布により作物の光合成を20~30%高め、高収益・高品質・減農薬など、21世紀の「農と食」を支える環境保全型農業資材です

#### (1)春肥期(2/下~3/中)

・シーマロックス液肥0.7L+水1,500L樹冠灌水(2回)

#### (2)一番茶摘採前(4/下~5/中)

・シーマロックス液肥0.1L+水300L葉面散布(光合成強化)(2回)

・シーマロックス液肥0.1L+水300L 葉面散布(減硝酸チツソ)(2回)計4回

\*葉面散布は4~7日間隔 4回目は摘採4~5日前に終える

#### (3)一番茶摘採後(5/上~5/中)

・シーマロックス液肥0.3L+水1000L樹冠灌水(芽出し促進)(1回)

#### (4)二番茶摘採前(5/下~6/中)

・シーマロックス液肥0.1 L+水300L葉面散布(3回)

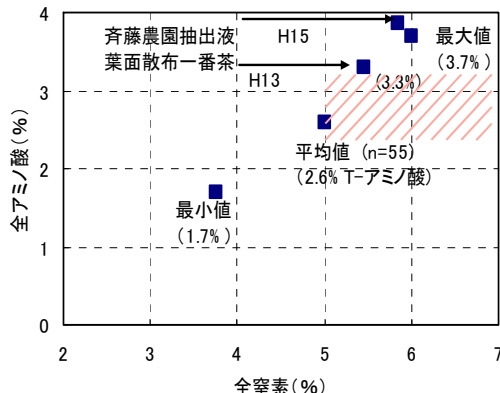
#### (5)夏・秋肥期(8/ ~9/ )

・シーマロックス液肥0.5L+水1,500L樹冠灌水(2回)

シーマロックス液肥合計量=3.5L/年

#### 効果

発根量増大 肥料吸収向上 減チツソ肥(施用40kg) 葉緑素・光合成の増強  
茎葉中硝酸性チツソ減少 耐病性向上(減農薬) 茶葉摘採期延長(クキ木質化遅れる)  
晩霜被害軽減(高糖度) 有機質の分解加速 うまいと増収(20~30%アップ)



#### 一番茶のアミノ酸・チツソ含量

平成13年産分析

お茶の「うま味」はテアニン含量で決まります。テアニンはおもに茶樹の根で合成します。グラフ右肩の斜線区に入れば農水大臣賞が受賞できる品質といわれます。

- \* 農薬と併用の場合は2,000倍水をつくり農薬を加えてください。
- \* 希釈水に少し沈殿が生じることがありますが有効成分のミネラルが析出したものです。
- \* 希釈水は毎回使い切りください。